学校図書館評価基準の改訂にあたって（趣旨説明）

全国学校図書館協議会では，このたび 18 年ぶりに「学校図書館評価基準」を改定いたしました。2008 年の前回改定から今日に至るまで，学校図書館を取り巻く環境は激変しています。情報化のさらなる進展や，個別最適な学び，教育の多様性への対応など，現代的な教育課題に向き合う「学びの場」としての役割が今，改めて問われています。

本改定では，最新の「ユネスコ学校図書館宣言」(2025)の理念等に基づき，評価項目を 94 項目から 58 項目へと厳選・整理しました。項目を絞り込み実効性を高めることで，複雑化する社会状況やバリアフリーへの対応はもちろんのこと，日々の授業や教育課程とのしなやかな連動，そしてそれらの多様な学びを支える組織的な連携のあり方等の新たな視点をより明確に反映させています。また，前基準で好評であった「レーダーチャートによる視覚的な現状把握」の利点は継承し，自校の強みや課題を一目で可視化できる仕組みとしています。

本基準が，単なる点数化された現状把握の結果で終わることなく，各学校のニーズや個性に合わせた「より良い学校図書館づくり」を推進するための確かな「羅針盤」となることを期待しております。本改定案につきまして，広く皆様からの建設的なご意見をお寄せいただけますと幸いです。